

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
蜂須賀 のぞみ			
木1、3			
添付ファイル			

科目の概要	栄養教育論Ⅱでは、行動変容の基礎となる学習理論と技法、カウンセリングなどの技術について理解し、具体的な栄養教育の方法を解説する。 また、ライフステージ、ライフスタイル別の栄養教育では、各年代に応じた栄養教育の方法や、傷病者・障がい者、災害時など、全ての人のQOLを高めるための栄養教育について解説する。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方・成績評価の説明など）、「食行動変容と栄養教育」行動科学から見た食行動変容について説明する。</p> <p>第2回 「個人・個人間の行動変容に関する理論」個人・個人間の行動変容に関する理論について説明する。</p> <p>第3回 「個人の行動変容を促す技法」人の行動変容を促すいくつかの手法とその内容について説明する。</p> <p>第4回 「集団や社会の行動変容に関する理論の応用」集団や社会の行動変容に関する理論やモデルについて説明する。</p> <p>第5回 「組織作り・地域づくり」食行動変容につながる組織作り・地域づくりについて説明する。</p> <p>第6回 「栄養カウンセリングーコミュニケーションー」栄養カウンセリングにおけるコミュニケーションの種類や内容について概説する。</p> <p>第7回 「カウンセリング」栄養カウンセリングの種類や内容について概説する。</p> <p>第8回 「コーチング」コーチングの手法や内容について概説する。</p> <p>第9回 「栄養教育の方法①」対象に応じた栄養教育の方法・形態について概説する。</p> <p>第10回 「栄養教育の方法②」対象に応じた栄養教育の方法・形態について概説する。</p> <p>第11回 「プレゼンテーション技術」プレゼンテーションの手法等について概説する。</p> <p>第12回 「教育内容・教材・媒体①」栄養教育の教材・媒体について説明する。</p> <p>第13回 「教育内容・教材・媒体②」栄養教育の教材・媒体を作成し試演する。</p> <p>第14回 「ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育①」妊娠授乳期から思春期の栄養教育について説明する。</p> <p>第15回 「ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育②」まとめ成人期・災害時等の栄養教育について説明する。</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	行動変容の基礎となる学習理論について学び、理解できる。 カウンセリングなどの技術について学び、理解することができる。 栄養教育の目標や内容に応じた教育形態や教材、媒体などを類別することができる。 ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育について論じることができる。
授業の方法	講義形式を主とし、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを随時取り入れる。
成績評価の方法	小テスト（15%） 定期試験（55%） 課題提出（25%） 授業への参加態度（5%）
教科書・テキスト	栄養科学シリーズ 栄養教育論 第4版 笠原賀子、斎藤トシ子編 講談社サイエンティフィック （栄養教育論Ⅰで使用したものを扱うため、購入は不要）
参考書	食育白書等
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	新聞・雑誌・ニュースなど食育に関する情報に着目し、目を通しておくこと
履修上の留意事項	講義の事前にテキストを読んでおくこと

オフィスアワー	授業時間後に研究室において
実務経験	(所持免許) 栄養士 (昭和56年3月取得) 小学校教諭1級普通 (昭和56年3月取得) 管理栄養士 (平成元年11月取得) 栄養教諭1種 (平成19年3月取得) 1級総菜管理士 (平成13年7月取得) 初級システムアドミニストレーター (平成14年5月取得) (勤務歴) 昭和56年4月～平成31年3月 大阪府箕面市 学校栄養職員 栄養教諭 指導主事 教頭
その他	欠席した場合は次回の授業までに講義資料を受け取りに来ること